

第三セクター等経営健全化方針

1. 作成年月日及び作成担当部署

作成年月日 令和3年3月29日

作成担当部署 吉賀町企画課

2. 第三セクター等の概要

法人名 株式会社エポックかきのきむら

代表者名 代表取締役社長 河野克則

所在地 島根県鹿足郡吉賀町柿木村柿木500-1

設立年月日 平成5年9月14日

資本金 16,200千円【吉賀町の出資額（出資割合）8,500千円（52.5%）】

業務内容

1. きのご用菌床の生産販売
2. きのご、有機農産物、その他農林畜産物及び淡水魚の生産、集出荷、販売
3. きのご、有機農産物、その他農林畜産物及び淡水魚の加工、開発、販売
4. 堆肥の製造、販売
5. 軽飲食、喫茶店の経営
6. 木製品、竹細工、陶磁器等の加工、開発、販売
7. 温泉施設の経営
8. 清涼飲料水、嗜好飲料、果汁飲料、酒類の販売
9. 農林業生産物の栽培、研究、開発及び技術指導
10. 建築物、公園、道路、諸施設等並びにそれらに付帯する施設の保全管理及び清掃に関する受託、委託事業
11. 農業、林業、土木、建築業等の作業の受託及び委託に関する事業
12. 産業廃棄物の収集及び運搬並びに産業廃棄物の処分に関する事業
13. 前各号に付帯関連する一切の事業

3. 経営状況、財政的なリスクの現状及びこれまでの地方公共団体の関与

株式会社エポックかきのきむら（以下「エポック」という。）は、椎茸菌床の製造販売を始め、椎茸の集出荷、道の駅等における産直販売事業を中心としながら多方

面での事業展開を行い、地域雇用の創出と、農林業をはじめとする地域産業の振興、生産意欲の向上等に寄与してきました。

エポックの損益計算書を見ると平成23年度までの数年間は黒字経営が続いていましたが、平成24年度に435万円の赤字、25年度に294万円の赤字に転じました。この業績悪化を解消するため平成26年11月に5年間の経営改善計画書を策定し改善に取り組んできました。

この取り組みにより、平成26年度は42万円の赤字、平成27年度は2万円の赤字と損益の状況は徐々に改善し、平成28年度には19万円の黒字に転じました。しかしながら、平成29年度については、経費の増加や直営店をはじめとする各部門の営業利益減少により825万円の赤字となり急激に損益の状況が悪化しています。平成30年度、平成31年度（令和元年度）も売上の減少等さらに悪化が進み、純資産が△26,736万円となり債務超過に陥っています。

このため、経営改善計画の見直しが必要となり、平成31年1月に抜本的な事業の見直しを含めた事業再生計画を策定し、経営の立て直しを目指しています。

一方、資金面については、平成27年2月に、当面の資金不足による経営危機回避のため、町から1,200万円（償還期限2年満期一括償還）の貸付を行い、平成29年2月に償還されています。しかしながら、その後も収支改善が進まず資金に余裕が生じていないことから、金融機関等からの長期貸付金の増額を行ってきています。

吉賀町（以下「町」という）では、平成26年の経営改善計画書の策定以前から、町と公益財団法人しまね産業振興財団により月次の定期的な協議の場を持ち継続的に経営状況を確認し、経営改善に向けた指導・助言を行ってきました。また、助言により各種制度を活用した研修の実施や、補助金による経営診断・改善計画策定支援、貸付金による資金調達等の支援も行ってきました。

なお、現時点で町は債務の損失補償、短期・長期貸付及び長等の私人としての債務保証は行っていません。

4. 抜本的改革を含む経営健全化の取組みに係る検討

エポックの主要な事業は、菌床椎茸関連事業及び道の駅関連事業です。特に菌床椎茸関連事業は、町の施設の指定管理を行いながら町の特産品としての椎茸の産地

形成や生産者支援等を行う事業で第三セクター設立の柱です。しかしながら、近年の椎茸産業を取り巻く環境の変化等もあり、生産量、販売額ともに減少傾向が続き、町内の椎茸生産量が減少する中、町としては菌床生産施設の更新は実施しないという判断をしました。このような状況の中、経営悪化が加速し、令和2年8月の臨時株主総会において令和2年度末での菌床事業の廃止を決定したところです。

菌床椎茸関連事業から撤退し、今後は道の駅関連事業に特化した経営となることから、町としては会社の第三セクターとしての役割は終了したものと判断し、民営化を進める方針としました。

5. 抜本的改革を含む経営健全化のための具体的な対応

民営化するため、令和3年3月の議会において町が保有するエポックの株式を譲渡する議決を得ました。株式の譲渡先は、新たな体制で引き続き出資者として残る方です。

また、民営化後の経営開始に向け、これまで第三セクターとして地域振興につながる公共性、公益性の高い事業を行ってきたことを踏まえ、債務超過額の整理について助成を行う予定です。

(参考)

6. 法人の財務状況

貸借対照表から	項目	金額（千円）			
		H28	H29	H30	R1
	資産総額	93,500	87,603	80,692	46,882
	内 現預金	47,186	32,100	35,455	13,138
	内 売上債権	6,189	10,408	6,654	2,909
	内 棚卸資産	33,836	30,120	25,044	20,820
	負債総額	82,736	85,088	92,337	73,618
	内 当該地方公共団体からの借入金	0	0	0	0
	純資産額	10,764	2,515	△11,644	△26,736
	内 累積欠損金	△5,436	△13,685	△27,844	△42,936

損益計算書から	項目	金額（千円）			
		H28	H29	H30	R1
	売上高	216,595	206,062	177,645	119,451
	売上原価	132,540	126,783	110,806	77,868
	売上総利益	84,055	79,280	66,839	41,583
	販売費及び一般管理費	84,035	88,411	83,556	56,482
	営業利益	21	△9,132	△16,716	△14,899
	営業外損益	△6	691	76	△267
	経常損益	15	△8,440	△16,641	△15,166
	特別損益	539	556	2,846	333
	割引前当期純損益	553	△7,884	△13,794	△14,833
	法人税、住民税及び事業税	365	365	365	258
	当期純損益	189	△8,249	△14,159	△15,091